

牧草と園藝

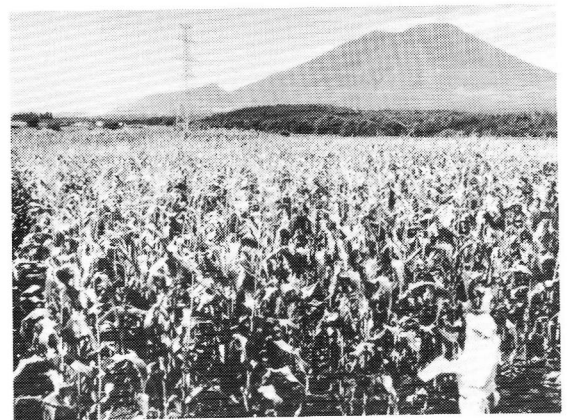
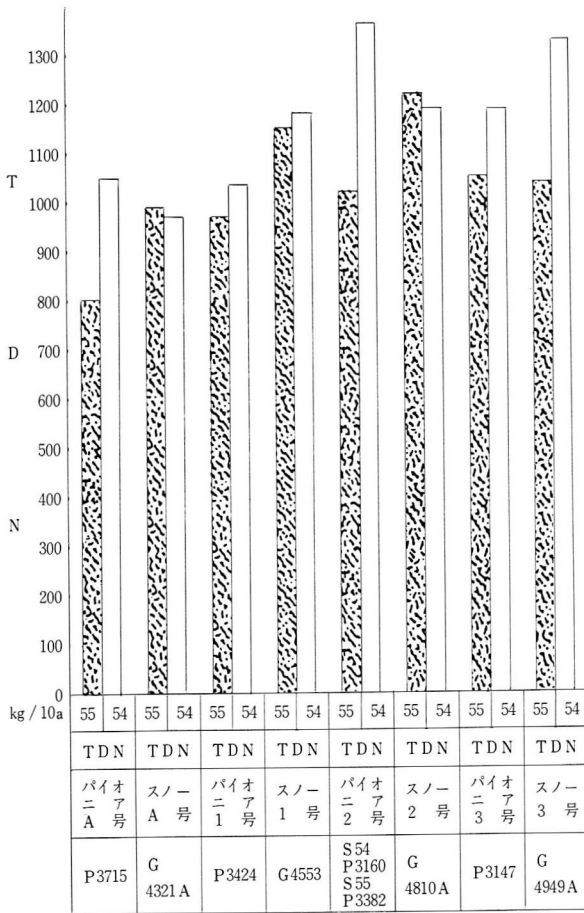


東北地方における冷害年(昭和55年)の F₁トウモロコシ生育状況

—サイレージ用F₁トウモロコシ栄養収量(TDN)の品種間, 年次間差—

収量成績

試験地 岩手県滝沢村
千葉研究農場
東北事業部



結果及び考察

- (1) 昭和55年は冷害年であったが、スノーA号、パイオニア1号、スノー1号、スノー2号等は大きな栄養収量(TDN)の低下は認められなかった。適栽植本数, 肥培管理等の基本を確実に励行したことが、生育期間を前年より要したが収量を確保できた要因と考えることができる。
- (2) パイオニア3号, スノー3号の収量減が比較的大きい傾向が認められ, 地域性から判断して平年でも晩生すぎ, 生育期間を延長しても収量を確保することができなかった。気象条件の不安定性を考慮した品種選定が重要である。
- (3) パイオニア2号は, 耐病性強化のため系統更新を行っており, 両年の単純な収量比較は不適切と判断される。尚, パイオニアA号は昭和54年が出来すぎの感があり, 又, 冷害気象条件下で子実の揃性に欠ける点が認められ, 昭和57年春より新系統へ更新しパワーアップをはかる予定である。